

かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)

電話 66-1311
FAX 66-1314



国須分教会

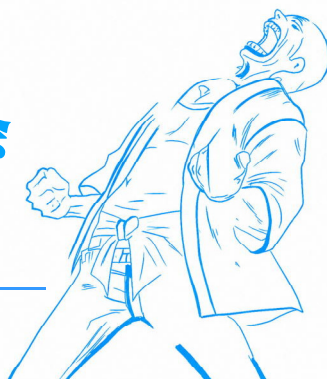
昭和27年4月25日 設立
昭和33年 増築遷座
昭和41年11月6日 移転建築鎮座祭
昭和41年11月7日 奉告祭

立教189年11月23日(月)午前10時(9時受付)

天理教青年会笠岡分会

青年会長様御臨席総会

～親孝心を、生きる～



立教189年
9月号

おつとめ・式典
感話・抽選会(16時終了予定)

立教189年

こどもおぢばがえり

今年も、夏のこどもおぢばがえりが開催されました。

笠岡団からは、少年会員265人、育成会員302人、合計567人の方々が、帰参教会68ヶ所からお帰り下さいました。

詰所の飾り付けを始め、受け入れのひのきしん、又教区関係へ、そして各会などからもひのきしんにご参加頂きありがとうございました。

大教会として、今年も詰所クイズ、かき氷などをさせて頂きました。



詰所の飾り付け

各教会では募集、引率も大変だったと思いますが、今年も子ども達におぢばでの素敵な思い出を与える事が出来たかと思っています。

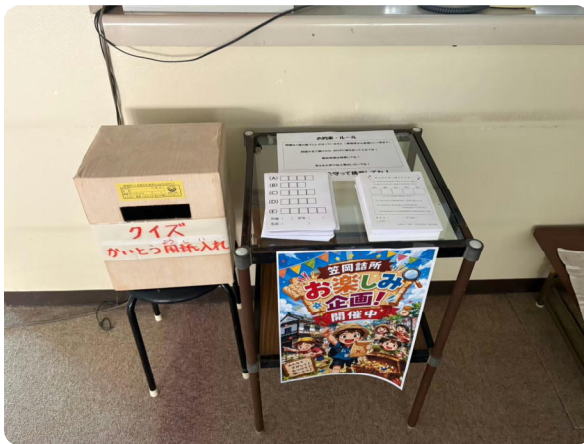
鼓笛隊も、福山隊は惜しくも銀賞でした。本隊は金賞を受賞し、ポンポンの子たちは優秀演技賞もいただきました。

それぞれオンパレードに向けて精一杯頑張ったその努力に心から拍手を送りたいと思います。

又、詰所クイズに關しまして当選者を発表します。
今回のクリア者



優秀演技賞受賞したポンポンのメンバー！



詰所クイズ

・キャラクター宛クイズ

笠岡	上原 一
笠岡	秋山 裕哉
笠岡	藤原 希々花
弥高山	オカザキウタ
陶山	上原 かすみ
陶山	上原 スバル
明石市	岸本 みゆ
三郡	タニモトユウト
東水島	安原 りん
簸ノ川	ツモリカナタ

・クイズラリー

笠岡	秋山 眞子
笠岡	スグチアヤノ
福山	大橋 空生

高屋 米川 ひなこ
高屋 米川 大晴
海松ヶ岡 森本 海理
明石市 杉原 いさ
明石市 岸本 さら
葦陽 笹尾 孝太
坪生 掛谷 ころろ

以上の人には、教会を通して景品をお届けします。

ご参加ありがとうございました。
(少年会団長 森本 忠 善)

学生生徒修養会

高校の部開催

学 担

8月9日から13日まで親里で、「学生生徒修養会高校の部」が開催され、笠岡からは、森本ひかりさん、森本海さん(何れも海松ヶ岡)が受講した。

(笠岡学担委員長 上原 繁次)

学修に参加して

海松ヶ岡分教会 森本 海
僕は、学生生徒修養会、高校2年生の部に参加してきました。去年は参加できず、2年生からの参加だったので



左:森本ひかりさん、右:森本海さん

最初は不安でした。しかし、1日目から周りの人たちと話すことができ、すぐに仲良くなることができました。5日間を過ごす中で、普段の生活ではなかなか考えることのないことについて考え、たくさん学びや気づきを得ることができました。

今回の学修で特に心に残ったのは、「陽気ぐらし」についてです。自分が楽しく過ごすだけではなく、周りの人と一緒に喜び、楽しむことが大切なのだと思ひました。周りの人も楽しく過ごせるようにするためには、相手のことを考えて行動することが大切だと思ひました。

また、親神様が私たち人間をつくつ

た親であるということについても改めて考えることができました。自分のことばかりを考えるのではなく、自分も周りの人も同じように大切な存在だと考え、人への接し方を変えていきたいと思ひました。

班活動では、いろいろな人と話す中で、自分とは違った考え方を知ることができました。同じ話を聞いていても、人によつて感じ方や考え方が違つていて、とても面白かつたです。自分の考えだけで決めつけず、相手の話を聞くことの大切さも学びました。

また、普段関わらないような個性豊かな友達もできました。最初は「この人たちと5日間やつていけるかな」と思つていましたが、気づけば一番仲良くなつていき、レクリエーションや班活動を通して、みんなで協力して楽しく過ごすことができました。最初は不安でしたが、いつの間にかその気持ちもなくなり、あつという間の5日間でした。

今回学んだ「周りの人と共に喜ぶ」ということを、これからの学校生活や普段の生活でも意識していきたいです。

最後に、この会に参加するきっかけ

をいただいたのは僕にとつても周りのみんなにとつてもすごく成長のかてになつたと思うので僕にとつてはプラスにしかありません。自分のことだけを考えるのではなく、周りの人の気持ちも考え、みんなで楽しく過ごせるように行動していきたいと思ひます。

夏の学習指導(夏学)

開催学担

学生担当委員会(上原繁次委員長)は8月16日、大教会で「夏の学習指導(夏学)」を開催し、3人が参加した。

現役の大学生が講師となり、大学受験を控えた高校3年生に、ポイントなどを分かりやすくレクチャーした。

(委員長 上原 繁次)

サマーキャンプ開催

大教会敷地内で

少年会

少年会笠岡団(森本忠善団長)は少年会員26人、育成会員13人、計39人の参加のもと、笠岡大教会を会場に8月21日から23日の2泊3日でサマーキャン



みんなで作ったご飯は最高!

プを開催しました。今回も大教会長様にもご参加頂きました。



キャンドルファイヤー！

このキャンプは火・水・風の親神様の御守護を肌感じるとともに、たすけあいを実践し、そこに喜びを感謝を体得する、少年会員の育成を目的に実施される行事です。

出発式では、3日間の無事を親神様、教祖にお願いさせて頂き、育成会長様からご挨拶を頂いた後、夕食のカレー作りをしました。火をおこすところから始め、野菜を切ったりお米を研いだりと、子どもたちにとっては貴重な体験ができたとともに、普段の生活の困難さを感じました。そして、みんなで協力してできたカレーの味は格別でした。

夕食のバーベキューの準備までの間、子どもたちはまだまだ元気なので、恒例のモルックや、育成会員考案の班別対抗ゲームなどで班同士の関わりを深めました。たくさん動いてお腹ペコペコになってから食べるバーベキュー



流しそうめん、楽しいね！

お昼過ぎに大教会に戻ると、先生方が竹で作った本格的な流しそうめんを頂きました。子どもたちも大変喜んでいました。

今年も天気に恵まれ、大きな事故、怪我なく無事に終わらせて頂いたことを改めて感謝させて頂きます。ありがとうございました。

(委員 三代拓己)

夕づとめ後、講堂でキャンドルファイヤー。ここでは各班で考えてきたスタンツを発表しました。皆に楽しんでもらおうとそれぞれ工夫していてとても楽しい時間でした。

2日目は、朝づとめをして朝の集いの後、朝食のご飯と味噌汁を作りました。前日のカレー作りの経験を生かし、手際よく作れました。

は最高でした。

2日目の夜はみんなで花火をして、その後おやつフルーツポンチを食べました。丸一日行事が盛りだくさんだったので、前日より早く寝袋に入り就寝する子どもたちでした。

3日目は、朝の集いの後、朝食作り。そして撤収。閉会式、そして解散。



来年も参加、待ってるよ！

兵庫中央分教会 布教実習実施 青年会

2時間の間で、個別訪問・路傍講演・神名流しという、教祖にお喜びいただける「布教実習フルコース」をするとは思っていませんでした。笑

8月29日、兵庫中央分教会へ布教実習に行かせていただきました。

今回は、路傍講演初体験の委員・岡崎一真さんと2人で参加させていただきました。

神殿到着後、おつとめをさせていただき、その後、三宮の住宅地を笹倉先生、岡崎くん、そして教祖と一緒に歩かせていただきました。

最初は緊張から声も震え、ボリュームも控えた岡崎くん。

しかし、笹倉先生と2人で回って

く中で、少しずつ声がハッキリし、どんどんボリュームも上がっていききました。

そして初めての路傍講演は、なんと三宮センター街の真ん前。

土曜日のお昼前ということもあり、たくさんの方が行き交う場所です。

そんな中、一生懸命に原稿を読みながらもお話をする岡崎くんの姿に、こちらが大きな勇みをいただきました。

この1日で、彼はどれだけ自分の殻を破ったんだろう。

帰り道、やり切った清々しい横顔を見ながら、そんなことを思いました。

笹倉先生は、「初めてののにをいかけ、緊張したやろ？不安でこわかったやろ？でも、その緊張しながら一生懸命にをいかけする姿を、教祖は大変喜んでくださってるよ。」と声をかけておられました。

失敗しないように頑張れ、と言うのではなく、一歩踏み出したことそのものを喜んでくださる。

そんな声かけが、周りの人を勇ませ、にをいかけ・おたすけへ歩み出す勇氣につながっていくのだと感じました。

また、ねり合いの中では、ひながたをたどらせていただく、その1歩目が

にをいかけであると教えていただきました。

これから9月の全教布教推進月間に入っていく中で、勢いを持って臨ませていただくための、貴重な実習となりました。

今後も継続して布教実習を行います。1人ではちよつと勇氣がいる。でも、みんなで行けばちよつと楽しい。そんな布教実習です。

すでにリピーター希望率はかなり高め。

ぜひ皆さんとも一緒にできることを楽しみにしています！

(委員長 瀬藤 大喜)

令和8年熊本地震
炊き出し支援の報告
会長室

令和8年熊本地震 炊き出し支援の報告 会長室

9月7日に出発し、有志10人(ワゴン車と貨物用ワゴン車)で8日八代市八千把コミュニティセンターの避難所で炊き出しをさせて頂きました。

内容は以下の通りです。

8日朝食(41食)・・・白ご飯、味噌汁、だし巻き玉子、ハマチ煮付け、漬物、おひたし、バナナ。

8日昼食(128食)・・・牛丼(紅シウウガ、温玉)、具沢山味噌汁、かぼちの煮付け、シフォンケーキ(ブドウ)、ドーナツ、かき氷、メッセージカード。

この度も炊き出しの準備や多くの炊き出し食材、ご寄付のお心寄せを頂きました。お陰で炊き出し支援をする事が出来ました。

寄付金は相談の上、八代市社会福祉協議会と市内で全壊された2カ所の教会に義援金として寄付させて頂きました。引き続き支援を続けていきたいと思ひます。

また同8日、同じ笠岡チーム10人が八代市植柳下町で、解体してあるブロック塀を2トントラック1台軽トラ1



台に積み込み、処分場で処分をする復興作業に汗を流しました。報告まで。

(室員 上原 志郎)

参加者の声

▼陶山分教会 上原 繁次

今回の災害救援活動は炊き出しという事で、当日私は出来上がった食事を、受け取りカウンターで被災者の方々に手渡しする役割と、八代市社協と被災教会に志郎先生と吉福ひささんと回らせてもらいました。八千杷コミュニティセンターに避難されている方の食事は、毎日炊き出しがあるわけではなく、基本的にカップ麺、缶詰、アルファ米などの非常食から選んで食べているとの事でした。9月に入り、やっと毎夕食だけは市から炊き出しが行われるようになったそうですが、手作りの物を食べることはあまりない(特に朝食)状況でしたので、今回の朝と昼の食事提供は大変喜ばれました。カウンターに立っていると、何人もの方々が、「美味しかった。元気が出た。久しぶりに野菜を食べた。」と、わざわざお礼を言いに来てくださったたり、同時に提供していたかき氷に、「今年初

めて食べた。」と言って喜んでくださったりと、こちらが元気を頂いたような感覚でした。また家族が熊本本のショッピングモールに勤めていて、爆発事故の直前に避難して助かった話を聞かせてもらったり、今日他の施設に移るため、涙ながらにお別れを言っている方の姿を目にしたりなどしました。さらに避難所を運営する青年海外協力協会の方が、様々な被災地での天理教の災害対応に対して有難いと感じている事、その方の子どもが今年のこどもおちばがえりに参加したという事も聞かせていただきました。多くの方々の様々な人生の糸が、この避難所という一点で交差しており、一瞬であるとは



避難所に届けられた真心の食材

いえ、縁あってそこに私も居合わせているのだと感じました。

被災教会には、2ヶ所回らせていただき、ほぼ全壊と、一部損壊という教会でした。教会の会長さんやご家族の方々と話をさせていただく中で、とにかく命があつて無事で良かったと言っておられました。また各教区の災害救援ひのきしん隊に大変感謝しておられ、熊本では10年前の震災、近年では水害があつたにも関わらず、教会の復興に向けて気持ち前に向いておられることが印象的でした。

2日間を振り返った時、義援金、食材提供、出発までの準備といった、現地に来れない方の想いが詰まっていた炊き出しだったので、避難所の方々が大変喜んで下さったのだと改めて感じました。

▼皆部分教会 常井 二三代

私は先日、熊本の炊き出し支援に参加させて頂きました。最初は年令の事もあり、今年は猛暑続きで体調も崩していたのと、職場の行事が直ぐに控えていたので不参加を決めていました。ところが職場で話をすると「是非是非」と応援して下さい、教祖が「案じる事

はいらん、大丈夫」と背中を押して下さった気がして直ぐに参加の返事をしました。

出発日、合流するとたくさんの方の材料、物品物資が2台のワゴン車の1台に手順よく整えて積み込まれ、もう1台に10人の参加者が同乗、出発前に大教会の神殿で奥様よりあいさつを頂き、参拝すると気持ちよく送り出して下さった職場の人達、家族に感謝の思いで勇み心いっぱいのお出発となりました。

6時間の車中も疲れることなく、熊本には夜遅くなりましたが、宿泊の教会の会長さん奥さんが待っていて下さり布団でゆっくり休ませて頂きました。



1日も早い復興を願って



好評だったスイーツと牛丼弁当

当日は早朝起床、移動の車中から屋根のビニールシート、崩れた家屋を眼にすると本当に心が痛みました。

朝食はハマチの煮付、だし巻き玉子、おひたし、味噌汁を41食、昼食は牛丼、具沢山味噌汁、温玉、かぼちゃの煮付、シフォンケーキを128食、すべて直ぐに調理できるように、野菜は切り込まれ、物品・材料は手際よく使えるよう箱に入れられ明記されていました。前準備にも多くの手があったんだろうなと思います、開催を計画して下さった方、それを援助して下さる方々の本当に大きな力を感じさせて頂きました。炊き出しをさせて頂いた現場ではま

だまだ暑い日でかき氷が大変よろこばれ、家が全壊している方、水がまだ出ない方など被災された方々なのに、私達に笑顔で「おいしかった、ありがとう」と声をかけて下さり、帰る時には手を振って、こちらが元気をもらいました。

今、世界中で災害が起きていてテレビでは連日報道されています。小さな私に何が出来るのだろうと悩んだりしますが、神様には何か大きな思いがあるのでしょうか。

私は日々、仕事や事情で心がいつぱいになるとすぐに愚痴ったり、陰気になったりします。今回参加させて頂き、皆様の真心に触れ、心が洗われた気がします。これからもこの様な機会があれば参加させて頂き、日々の結構な暮しに感謝、家族や周りの方々に感謝し、いつも笑顔とよろこびで、何か自分のできることを頑張りたいと思います。

▼芳井分教会 佐藤 和代

笠岡大教会の熊本災害炊き出し支援チームに参加させて頂きました。

これまで何度も参加させて頂いていましたが、この度は自分の「同志達」などと呼びかけをして沢山の野菜、卵な

どを熊本へ届ける事が出来ました。災害支援は常にアンテナを持ち迅速に動ける事が大切だと毎回感じています。今、世界中で驚くような災害の様子を度々目にするようになりました。日本でもあちこちで、これまでにない記録的な被害を受けている状況があります。

地球全体が悲鳴をあげているこの状況で神様はいつまでも気が付かない私達人間に痺れを切らされているように感じています。

朝目が覚めて、家族とのふれあいの時間を過ごして、また一日を終えるこの日々の中に、もつともつと感謝してこのありがたさを形にして行かないと申し訳ないなと素直に感じさせて頂いた2日間でした。現地の皆様にしっかりと皆さんの気持ちを届けさせて頂き喜んでもらえて本当に嬉しかったです。ありがとうございます。



過日、本部保護司連盟委員として、広島教区福祉部総会に出向しました。

拙い話を終えた後、地元の有名店で尾道ラーメンをご馳走になりました。午後には分科会があるということで私が、私の役目は終わりましたので車で尾道駅まで送って頂きました。ひと仕事終え、帰りの電車まで30分もある。つまり「〇〇〇〇アサヒと〇〇チキ」という黄金コンビの出番でした。

駅の待ち合いロビーでシュパッと仕合せに浸っていると、昼間から良いなあという羨望の視線を感じました。

隣のベンチには若者が3人、ロッカー周辺にはユーがたください。

ウーム、もしかするとホワイトアイではなからうかと気の弱いボクはコンビニのレジ袋で「〇〇〇アサヒ」を優しく包んで頂いておりました。

やがて、連れが来たのか隣の若者達が立ち上り去ろうとした、その時でした。ベンチにスマホを忘れていたのではないか！ボクは大声で「スマホ！スマホ！」と呼びかけました。

彼は振り返り向き、置き去りにした自分のスマホを発見しました。「ありがとうございます」という彼の視線はホワイトアイからサンキューアイに変わっていました。いいことをした後はとても気持ち良いですね。

八月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます
親神天理王命の御前に 会長上原明勇 慎んで申し上げます

親神様には「月日にハセかいちう、はみなわが子 たすけたいとの心ばかりで」との親心から 天然自然のお恵みと身の内の御守護をもつて日夜変わらずお働き下されているばかりではなく 身上事情を通して陽気ぐらしへとお導き下さっております事は誠に有り難く勿体ない極みでございます 私共は日々朝夕に御礼申し上げると共に 一人でも多くの方にこの親心を知って頂きたいと たすけ 一条の御用の上に努め励まして頂いております

その中にも今日の吉日は八月の月次祭を執り行う日柄でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同 喜び感謝の心も一人に明るく陽気に勇んで座りづとめてをどりを勤めさせていただきます 御前には夏の暑さの中にも今日の日のを楽しみに寄り集いました道の子供たちが 相共にお歌を唱和し 日頃のご高恩に改めて御礼申し上げる状をご覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さてこの教祖年祭の年のこどもおぢばがえりも大勢のこどもたちと共におぢばへ帰らせて頂きました 大きな事故怪我もなく結構にお連れ通り頂いた事をお礼申し上げます その最中熊本地震という大きなふしをお見せ頂きました お見せ頂く姿は全て陽気ぐらしをさせてやりたいとの親心であることに改めて思いを致し 思案し 自分にできるおたすけをさせて頂く所存でございます

また来月は「にをいがけ強調の月」と定めて頂いております 未だ教えを知らぬ人たちへ親の思いを伝えて人をたすける心になつてもらえるよう それぞれの持ち場立場で精一杯励ませて頂きたいと存じます

何卒親神様には 陽気ぐらしをさせてやりたいとの思召にお応えしたいと たすけ 一条に邁進する皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上に尚も自由の御守護を賜り お望み下さる陽気づくめの世の状が一日も早く実現しますようお導きの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

立教百八十九年 八月月次祭 祭典役割表

祭主		扈者		講話	役割 / 区分		地方		おつとめ てをどり						笛	ちゃんぽん	拍子木	太鼓	すりがね	小鼓	琴	三味線	胡弓																			
大教会長様		岡崎真一			座りづとめ		今川昌彦		中村義太郎		大教会長様		前会長様											上原繁道		大教会奥様		前奥様		田中ますみ		浅野明教		高木昭祥		佐藤道孝		中村剛		吉岡壽		上原繁次
大教会長様		岡崎真一		田林久嗣	前 半		上 原 志 郎		山 野 弘 実		杉 原 善 朗		門 脇 元 教		上 原 浩 浩		横 山 逸 郎		門 脇 加 津		横 山 小 智 榮		山 野 な つ		岡 崎 治 喜		内 海 史 郎		岡 田 誠		谷 内 秀 自		今 川 昌 彦		佐 藤 真 孝		内 海 安 子		三 島 照 美		吉 岡 八 恵	
高木昭祥		岡崎治喜			後 半		岡崎真一		吉岡誠一郎		三代温生		田中隆之		森本忠善		浅野明教		武内正美		室悦子		田中つかさ		中村剛史		赤木素志		中島誠治		門脇元教		横山逸郎		虫明立生		岡崎豊子		山野なつ		上原千枝子	

賛者		指図方		十月講話
高木昭祥		岡崎治喜		

扈者		講話
虫明立生		

祭主		講話
大教会長様		

試案 天理教笠岡大教会史

今こそ、全教あげて、御身をかくされてまで世界たすけを急き込まれた親の心に溶け込み、一手一つに互い立て合い扶け合い、陽気づくめに勇んで、ひながたの道を通していただかねばならぬ句である。

かねてから、「四方正面鏡やしき」と教えられた教えを、些かなりと形に表したいと、教祖百年祭の句に、東西礼拝場普請を提唱し、心をふしんして教祖にお喜びいただこうと誓った。心のふしんの進むにつれて形のふしんも進み、形のふしんにひのきしんの真実を伏せ込むうちに、心のふしんも一段と進む。ともに末代つづくきりなしふしんである。おふでさきに、

しんじつにたすけ一ちよの心なら
なにゆへいでもしかとうけとる(三 38)
と教えられる。

一言ののをいがけは、人の運命を変える。それは、をやの声を聞く時、心の向きが変わるからである。一度のおたすけは、人の心を入れ替え、無い命をもお救けいただく。これは、をやの理を受けるからである。かくて心のふしんは、一人また一人と進み、世界一れつに及ぶ。これぞ、世界のふしんである。

みかぐらうたに、

九ツ ここまでついてこい

十ド とりめがさだまりた 一下り目

九ツ こころをさだめあやうなら

十デ ところのをさまりや 二下り目

と教えられている。

教祖百年祭のまたとない句を迎え、にをいがけ・おたすけに丹精して、教祖の親心を、永く末代に伝え、広く世界に弘めて、世界一れつの心のふしんを進めよう。日々に教祖のひながたをたどり、たすけ一条の真実を

積み重ねよう。

にをいがけ・おたすけこそ、我々の生命であり、至上の使命である。この使命達成の上に、とりめが定まり、処の治まる陽気ぐらしを御守護いただける。

ここに全教一手一つの奮起を要望する。

昭和五十六年一月二十六日

真柱 中山善衛

二月五日 直属教会へ本部諭達巡教始まる

二月六日 大教会承事川合一夫人・摩耶分教会三代会長川合津多恵出直(七十歳)

二月二十一日 本部員平野知一先生を迎え諭達第三号の本部巡教講話

二月二十一日 雅鶯会及び少年会雅楽練習会(七〇人)

二月二十六日 照陽分教会三代会長中村道德任命(二代会長中村英夫出直)

就任奉告祭・五月五日

三月十日 諭達第三号、大教会直轄巡教始まる(一八日まで)

三月二十日 大教会新機構発表

常話 浅野明男 岡本久則 岡崎孝逸 岸本敏明 武内 清

神事 部長・今川昌夫 宮本友二 中島宇一 浅野和芳 岡崎輝夫 中

村邦義 佐藤道孝

河原節喜 杉原正夫 三代温生 豊田道人 中村剛 田林志計實 三島

克巳 岡崎和夫

庶務 部長・藤井憲男 佐藤道孝 森本忠平 谷内伸自 宮本泰徳 秀

平善敬 藤井義博 高島直道

会計 部長・岡本久則 今川昌弘

国内布教 部長・武内 清 次長・谷内信美 杉原正夫 吉岡智三 中

村剛 中村道德 福島忠 竹本勘市 開地俊夫 高橋久光 西江

昌直

海外伝道 部長・岸本敏明 次長・田中一之 上原眞雄 内海柱 上原

繁道 宮本泰徳 香取雅人 上原順子 吉岡孝彦 北川美子 岸

本和明

史料 部長・岡崎眞澄 上原繁道 岡崎和夫 西江昌直
管理 部長・門脇誠致 岡本久善 飯尾保人 三島材二 渡邊定夫 橋

本正之

詰所 部長・高田通昭 内海柱 岡崎孝志 岡崎佳夫

会長室 主任・上原繁道 上原さとよ

輸送掛 主任・武内 清 岡本久善 三島克巳 吉岡壽 西江昌直 掛

谷和由 佐藤主計 笹尾正治 三代温生 下田輝夫

かさおか編集掛 主任・上原繁道 岡崎和夫 吉岡輝昭

教養掛 主任・谷内信美 次長・岡崎輝夫 田中一之 門脇誠致 岡本

久善 佐藤道孝 杉原正夫 河原節喜 豊田道人 吉岡智三 中

村剛

田林志計美 三島克巳

諸会議 理事会 岡本久則

世話人会 藤井憲男

役員直属教会長布教所長会議 武内 清

直属ブロック会 岡崎輝夫

大教会史編纂委員会 岸本敏明

詰所運営委員会 高田通昭

婦人会 支部長・上原せい子

青年会 委員長・中村剛

少年会 団長・森本忠平

三月二十六日 呉中分教会四代会長下田章任命(三代会長岩崎ツル出直)

就任奉告祭…四月七日

三月二十六日 陽實分教会五代会長佐藤理生人任命(四代会長藤川テルヨ 昭和

五十五年十二月八日出直)

就任奉告祭…四月十一日

三月二十六日 芳井分教会附属建物増改築

三月二十七日 第二十六回春季英語講習会開催(六八人 三〇日まで)

三月 教祖百年祭特別巡教(六月まで)

四月一日 少年会鼓笛講習会開催(三二〇人 四日まで)

四月 立教百四十四年上半期布教実修会(七月まで)

五月三日 本部員・榊井幸吉先生祭主のもと二代会長夫人・上原光 四代会長夫

人・上原朝子三十年祭執行

五月二十一日 永尾一夫先生を迎え縦の伝道講習会(四九〇人)

五月二十四日 第十五回女子青年大会挙行(八〇人)

五月二十六日 廣町分教会四代会長宮本泰徳任命(三代会長宮本友二辞任)

就任奉告祭…六月二十八日

五月二十六日 東福山分教会設立(初代会長枝廣茂市任命)

鎮座祭…六月四日

奉告祭…六月五日

設立場所…広島県福山市東深津町二千六百八十九番地の一

六月二十一日 大教会世話人・清水國雄先生を迎え講話(八百人)

六月二十六日 稻富士分教会設立(初代会長山成久太郎任命)

鎮座祭…七月十三日

奉告祭…七月十四日

設立場所…広島県安佐南区祇園町東一千九百十八番地二十七

六月二十六日 亀田山分教会神殿及附属建物増改築

七月二十五日 本部西礼拝場使い初めのおつとめ執行

七月二十五日 こどもおちばがえり第一団出発(高屋・久松 二八日まで)

七月二十六日 こどもおちばがえり島根団体(二八日まで)

七月三十日 こどもおちばがえり第二団出発(神邊 八月二日まで)

八月一日 こどもおちばがえり第三団出発(直轄 四日まで)

八月二日 こどもおちばがえり第四団出発(福山 五日まで)

八月六日 第二十七回夏季英語講習会開催(五〇人 九日まで)

八月十日 欧州から初めてのおちばがえり(三十六人)

八月十五日 こかん様に続く会開催(二十七人)

八月二十三日 少年会おつとめまなび総会(六〇八人)

八月二十六日 教会長講習会(一三四人)

八月二十七日 大教会アメリカ巡教(九月十九日まで)

九月三日 少年会育成講習会(三七人)

九月二十日 大教会三代会長・上原繁雄米寿の御礼づとめ

十月二十一日 大教会役員任命

准承事・吉岡壽

青年・武内清明

おつとめ奉仕人・上原きよの 谷内千代子

十月二十五日 本部員・梶本巖雄先生を迎えてをどり講習会(六〇人)

十月二十六日 木津和分教会三代会長丸山勤任命(二代会長丸山確一 昭和五十

六年三月五日出直)

十月二十六日 神邊分教会附属建物増築

十月二十八日 教祖百年祭教会長講習会に大教会から百二十五人参加

十一月十一日 中山正信真柱名代の御入込のもと大教会創立九十周年記念祭執

行(四〇〇人)

十一月二十一日 大教会役員任命

おつとめ奉仕人・宮本おふさ

十一月二十二日 大教会理事岡本久則出直(六十七歳)

十一月二十六日 瑞北分教会設立(初代会長福島泰道任命)

鎮座祭・十二月五日

奉告祭・十二月六日

設立場所・島根県八束郡美保関大字北浦一千百十一番地三

十一月二十六日 上府分教会四代会長岡明任命(三代会長瀬尾謙造辞任)

就任奉告祭・昭和五十七年一月十七日

十一月二十六日 芦加茂分教会設立(初代会長小川安子任命)

鎮座祭・十二月四日

奉告祭・十二月五日

設立場所・広島県福山市加茂町大字下賀茂五百九番地の二

十二月一日 おやさとやかた西右第五棟竣工

この年、教祖百年祭に向かう心の指針論達第三号が發布され、その趣旨徹底に向けて、本部巡教、また大教会部内巡教が行われた。十一月十一日に、中山正信真柱名代の御入込のもと、大教会創立九十周年記念祭が執り行われた。また七月二十五日には本部西礼拝場の使い初めのおつとめがつとめられた。また十二月一日には おやさとやかた西右第五棟が竣工した。

この年の大教会年間統計 初席者四百六十三人 おさづけの理拝戴者三百三十三人 修養科修了者百九十三人 教人登録者五十九人 教人総数一千九百五十五人 よふぼく総数九千五百十二人。全教よふぼく総数百万一千五百九十五人。

昭和五十七年(立教百四十五年・1982年)

二月十一日 大教会史編纂常任委員会(この年、十八回開催)

二月二十六日 福中分教会三代会長串田幸恵任命(二代会長串田クミヲ 昭和五

十七年一月三日出直)

就任奉告祭 三月十一日

三月六日 永尾一夫、橋本恵美子両先生を迎え少年会育成講習会(八四人)

三月二十一日 合祀祭(百四十柱合祀)

三月二十一日 教祖百年祭布教推進隊研修会(五七人)

三月二十六日 芦常分教会移転建築

旧所在地・広島県芦品郡新市町大字常九百七十九番地

新所在地…広島県芦品郡新市町大字金丸五百十二番地の六

遷座祭…四月十日

鎮座祭…十二月三日

奉告祭…十二月四日

三月二十七日 第二十八回春季英語講習会(六〇人 三〇日まで)

四月一日 少年会鼓笛講習会(三〇〇人 四日まで)

四月 立教百四十五年上半年布教実修会始まる(七月まで)

四月二十三日 第百母屋(青年会ひのきしん隊宿舍)竣工

四月 立教百四十五年上半年布教実修会始まる(七月まで)

五月二十二日 土佐やすえ先生を迎え第十三回婦人会笠岡支部総会挙行(六〇〇人)

六月五日 高橋政行・高橋和子両先生を迎え少年会育成講習会(六九人)

六月二十一日 中川矩子先生を迎え縦の伝道講習会(四五〇人)

七月二十六日 金浦分教会五代会長西江昌直任命(四代会会長西江スガ辞任)

就任奉告祭…十月十日

七月二十五日 こどもおちばがえり第一団出発(神邊 二八日まで)

七月二十九日 こどもおちばがえり第二団出発(高屋・久松 八月一日まで)

七月三十一日 こどもおちばがえり第三団出発(福山 八月四日まで)

八月一日 こどもおちばがえり第四団出発(直轄 四日まで)

八月六日 第二十九回夏季英語講習会開催(七〇人 九日まで)

八月二十二日 少年会おつとめまなび総会開催(六〇〇人)

八月二十三日 こかん様に続く会開催(四〇人)

八月二十六日 大野佐七、松田令子両先生を迎え教会会長講習会(一四〇人)

八月二十六日 福昭分教会五代会長平盛スミエ任命(四代会会長平盛隼美 昭和五

十七年四月二十四日出直)

就任奉告祭…十月十日

九月五日 中山おあい様二十年祭

九月 立教百四十五年下半年布教実修会始まる(十二月まで)

九月十五日 福山分教会創立九十周年記念祭執行

九月二十六日 府世原分教会恒例祭日変更(毎月十五日―十二日)

九月二十六日 河面分教会恒例祭日変更(毎月十四日―八日)

九月二十六日 國須分教会恒例祭日変更(毎月十一日―七日)

九月二十六日 上小畠分教会恒例祭日変更(毎月十四日―十日)

九月二十六日 真府分教会恒例祭日変更(毎月十三日―九日)

九月二十六日 神邊分教会移転建築模様替

旧所在地…広島県深安郡神辺町大字川南三千百十八番地

新所在地…広島県深安郡神辺町大字川南六百七十一番地一

鎮座祭…十一月三日

奉告祭…十一月二十三日

九月二十六日 神邊分教会恒例祭日変更(毎月十八日―十六日)

九月二十六日 上下分教会恒例祭日変更(毎月十六日―十四日)

九月 立教百四十五年下半年布教実修会(十二月まで)

十月十七日 高屋分教会創立九十周年記念祭執行

十月二十五日 修養科修了者決起の集い(第八三母屋・笠岡詰所)

十月二十六日 本部で教祖百年祭三年千日決起の集い開催

十月二十八日 本部で教祖百年祭直属教会長夫婦講習会開催

十月三十日 布教所長成人講習会(百三十人)

十一月二十三日 神邊分教会創立九十周年記念祭執行

十一月二十六日 米美分教会親神様・教祖・お社取替及建築模様替並附属建物増

築

鎮座祭…十二月五日

奉告祭…十二月六日

十一月二十六日未明 三代会長左大腿部骨折 十二月十日手術

十一月二十八日 青年会部属分会委員長研修会(五四人)

十二月五日 村上忠雄先生を迎え女子青年創立三十周年記念総会開催(二三〇人)